

研究所だより

編集・発行

千葉県長生地方教育研究所

茂原市東郷2300-1

TEL 0475 (24) 9721・FAX 0475 (23) 4820

H P <http://www.choseikaikan.or.jp/>メール kenkyujo@beach.ocn.ne.jp

白子町におけるふるさと教育 (白子町の教育を考える)

白子町教育委員会 教育長 御園 正二

1 はじめに

白子町には、3小学校・1中学校があり、令和4年5月1日現在、635人の児童・生徒が在籍している。平成27年12月に制定された「白子町教育大綱」の理念に基づき、～郷土を愛し心豊かでたくましい人材の育成～を実現するために、白子町教育基本方針として、次の5項目を掲げている。

- 1 郷土への愛着と誇りを持ち白子町の将来を担う人材の育成
- 2 社会の変化に対応し、未来を切り拓ける人材の育成
- 3 「豊かな心」「健やかな体」を備えたたくましい人材の育成
- 4 生きがいを持って暮らし、地域を支える人材の育成
- 5 グローバル化に対応できる人材の育成

中でも、将来の白子町の発展と郷土愛を育む「ふるさと教育」に力を入れて取り組んでいる。

2 白子町における「ふるさと教育」の取組

(1) 姉妹都市である長野県小谷村との交流

ア 小学校

11月1日(火)、白子町立関小学校に小谷村立小谷小学校の6年生が修学旅行で訪問した。

事前の学習として、ICT機器を活用したリモート学習を行い、お互いの学校や地域の様子を紹介するなど、児童同士の交流が行われ、当日は、体育館での歓迎式典やドッジボールを通じて交流を深め、その後は関小学校の管理する畑に移動し、サツマイモ掘りや落花生掘り等の体験学習を実施した。また修学旅行後も、リモートを活用した児童同士の交流が続いている。



〈サツマイモ掘り〉

イ 中学校

令和4年8月24日(水)～27日(土)の4日間で白子町イングリッシュキャンプが、長野県小谷村、白馬村で実施された。これまでは長生村、一宮町と合同で、オーストラリア訪問をして中学生海外派遣事業を実施していたが、令和2年度から新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため中止しており、今年度も国内での研修を実施することとなった。こ

の期間中参加者全員で、小谷村立小谷中学校を訪問した。

体育館にて、歓迎の演奏の中、白子中生徒が入場した。その後、お互いのふるさとや名産について紹介しあったり、グループに分かれて自己紹介やクイズ大会などの交流会が行われた。充実した時間はあっという間に過ぎ、最後は昇降口前で全員揃ったの記念写真の撮影を行い訪問は終了した。その後も手紙のやりとりや情報交換は継続している。



〈全体集合写真〉

(2) 白子町小中プレゼンテーション大会

令和5年1月18日(水)白子町役場にて第6回白子町小中学校プレゼンテーション大会が実施された。全体テーマは「ふるさと白子 再発見」として、白子町小中連携教育協議会ICT部会が中心となり運営した。例年では12月中に実施されているが、今年度は実施できなかったため、発表内容は事前に収録されたもので、当日は役場会議室に町長、教育長、教育長職務代理の出席のもと、小中4校をオンラインで結んでの実施となった。

・関小学校は、地元企業であるK&Oヨウ素株式会社を訪問して調査したヨウ素についての発表
・白濁小学校は、ふるさと白子再発見と題してウミガメに関するこの発表



〈発表会の様子〉

・南白亀小学校は、白子町の家～マイクロプラスチックの現状～と題してマイクロプラスチックの問題点や活用方法を提案

・白子中学校は、白子町の人口増加をテーマとして、地元の中小企業を知ること、公園の活用、バスによる交通網を充実させることなどが提案された。

発表後は、各校が質問や感想を述べ、町長からの質問も出るなど、有意義な交流会が行われた。

3 おわりに

私は、4月当初の校長会議において、白子町の教育基本方針を基にした学校経営をお願いしている。加えて、「不易と流行を念頭に」「前例踏襲はしない」「人材ではなく人財の育成を」について話をしている。白子町は人口減少の問題が喫緊の課題である。この問題に対して、教育という現場においては小中学生にとって白子のよさを知る「ふるさと教育」が不可欠と考える。

第57回 千葉県小・中学校音楽教育研究大会 東上総 長生大会 音楽で結ぼう 人 地域 未来

～新たな価値を生み出す児童・生徒の育成～

長生教育研究会音楽教育研究部

令和4年11月18日、「千葉県小・中学校音楽教育研究大会 東上総 長生大会」を、茂原市立東郷小学校と茂原市立東中学校を会場に開催しました。

「千葉県小・中学校音楽教育研究大会」の長生地区での開催は、昭和51年の第11回大会以来、昭和60年、平成10年、平成21年を経て13年ぶりです。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和元年の「南房総市原大会」以来、紙上提案（北総 銚子大会）、オンデマンド動画配信（葛南 浦安大会）と続き、対面での開催は3年ぶりでした。期待も大きく県内各所から約230名もの音楽科教育に携わる方々に参加していただきました。

1 大会主題

大会主題は「音楽で結ぼう 人 地域 未来～新たな価値を生み出す児童・生徒の育成～」です。子どもたちが生涯にわたって主体的に音楽を楽しもうとする姿を願い、学習指導要領に示されている「生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成する」という目標に沿って掲げました。子どもたち一人一人の心に、音楽の価値が豊かに広がり、人や地域、未来と結ぶ楽しい音楽学習の創造を目指しました。

2 公開授業・分科会

午前は公開授業と分科会です。東郷小学校では3つ、東中学校では2つの公開授業を実践しました。

- (1) 小学校表現（器楽） 赤井恵梨 教諭（東郷小）
第5学年「曲想の変化を感じ取ろう」
教材名 「キリマンジャロ」
- (2) 小学校表現（音楽づくり） 小林あずさ 教諭（東郷小）
第1学年「様子を思い浮かべて、星空の音楽をつくろう」
- (3) 小学校鑑賞 志田輝美 教諭（東郷小）
第4学年「地域に伝わる音楽に親しもう」
教材名 「こきりこ」富山県民謡
「九十九里大漁木遣り唄」千葉県民謡
- (4) 中学校表現（創作） 篠崎佳生里 教諭（東中）
第2学年「言葉の抑揚を生かして旋律をつくろう」
- (5) 中学校鑑賞 中工亜希乃 教諭（一宮中）
第1学年「箏曲の特徴を感じ取り、よさや美しさを味わおう」
教材名 「六段の調」

研究の視点は、育成を目指す3つの資質・能力「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を柱に設定し、授業を構成しました。

【視点1】「知識及び技能」

- ①「思考、判断し、表現する一連の過程」を大切に、「見いだす」「自分で取り組む」「広げ深める」「まとめあげる」の四つの学習過程における発問の工夫やICTの効果的な活用
- ②音や音楽のよさを感じ取ったり知識や技能を習得したり改善したりすることのできる指導過程及び場の工夫

【視点2】「思考力、判断力、表現力等」

- ①試行錯誤しながら音楽表現を創意工夫するための学習

形態や場の設定の工夫

- ②自分の意見を明確にした上で意見の共有をすることのできるICT機器等の学習用具の活用の工夫

【視点3】「学びに向かう力、人間性等」

- ①ゴールの目指す姿を明確にし、自分の変容を自覚できる振り返りの場面の効果的な設定の工夫
- ②実態に応じた交流の場面の工夫

研究の概要・指導案・まとめ等は、東郷小学校ホームページに掲載しましたのでどうぞ御覧ください。

分科会は、東郷小学校で4つ、東中学校で3つ行われました。はじめに公開授業について、次に県内各地区代表による実践研究の提案発表、そして協議、最後に各分科会2名の助言者（千葉県内各所の指導主事・千葉県教育研究会音楽教育部役員）から指導・助言いただきました。熱心な協議で大変充実しました。

3 全体会

午後からは、東郷小学校体育館での全体会です。

指導講評では、佐藤 衛先生（千葉県教育庁教育振興部学習指導課 指導主事）と本多佐保美先生（千葉大学教育学部 教授）が登壇し、研究内容について、見解を述べてくださいました。

続いての研究演奏は、「ふるさと長生」をテーマに、はじめに長生郡市の市町村を映像で紹介し、その後、東中学校吹奏楽部が合奏、東郷小学校6年生が合唱を披露しました。演奏曲は、長生郡市の文化や風景にちなんだ楽曲を選曲しました。参観者からは、「中学校の演奏は豊かで重厚、美しい音色に聴き入りました」「小学校の合唱は優しく心地よい歌声で温かい気持ちになりました」等、好評をいただきました。

そして、東郷小学校・東中学校の卒業生でピアニストの青木智哉氏に登場していただきました。東郷小学校6年生の合唱とのコラボレーション、氏がアレンジしたディズニー音楽や聴きなじみのあるクラシックの名曲を、ユーモアたっぷりのトークを交えながら演奏してくださいました。参観者から、「小・中学校での学びが素敵なピアニストの育成に繋がっていると感じました」「卒業生が音楽を生活の軸にしている姿は、音楽科教育が生涯音楽の基礎を担うという意味でロールモデルです」等、感想をいただきました。

グランドフィナーレでは、「花は咲く」を、青木智哉氏のピアノと東中学校の吹奏楽の伴奏で、東郷小学校児童、大会参加者一同が華やかに合唱しました。会場全体が感動に包まれ、大会の幕を下ろしました。

参会の方から、「音楽教育に携わっていることに幸せを感じることができました」「音楽はやはり“生”がよいなと再確認できた一日でした」「たくさんの指導の種をいただき、有意義な一日でした」等の感想が寄せられ、私たちは改めて音楽の力を実感し、前進する勇気をいただきました。本大会での発表内容を振り返り、さらに研究を深め、研鑽を積み、子どもたちの明るい未来のため、一層の努力をしてまいります。



第73回千教研造形教育部会研究大会長生大会 『未来につなげ その波をのりこなす力を』 ～一宮からBig waveアートでみらい(海来)をつくりだそう～ 一宮町立一宮小学校

1 はじめに

千葉県教育研究会長生支会造形教育部会には、例年40名程度が所属しています。思い起こせば3年前、新型コロナウイルス感染症が全世界で猛威を振るい、最初の緊急事態宣言下で休校が続く中で本研究がスタートしました。造形教育部の会員も思うように集まることができず、会場校となった一宮小学校を軸とした大会に向けての準備とならざるを得ませんでした。

一宮小学校には、若手の教員が多く、図画工作科の指導、授業の進め方が分からないといった悩みを抱える教員も少なくありませんでした。なかなか講師の招聘も叶わない状況下でしたが、元千葉県教育庁東上総教育事務所指導主事前いすみ市立長者小学校校長 長谷川広様にはご無理を申し上げ講師をお引き受けいただき、やっとスタートラインに立てたという思いでした。

翌令和3年度には、千教研造形教育部会の研究主題『かわる・つながる・つくりだす』を具現化するために検討を重ね、長生大会テーマを次のように決定しました。

『未来につなげ その波をのりこなす力を』
～一宮からBig wave アートでみらい(海来)をつくりだそう～

児童生徒が未来に向かって、新たな意味や価値をつくりだすという創造性を育み、社会の変化や課題を波ととらえ、それをのりこなす力の育成を目指すものです。

一宮町は、海があり、サーフィンの聖地として多くの行楽客で賑わう町ではありますが、玉前神社のような歴史ある社もあり伝統的な催しも行われています。児童生徒に身に付けさせたい資質・能力や地域性等もふまえ大会テーマに思いを込めました。

2 大会運営について

長生郡市内の中学校は12校ありますが、美術科の教員数は6名と大変少なく、現代の課題である教員不足に直面しています。負担軽減と、感染症拡大防止の観点からも、生徒を移動させての授業は行わず、昨年度同様、授業動画の撮影・編集を行い、オンライン配信という提案方法を選択しました。南中、富士見中、茂原中の3中学校で授業実践を行い、題材をそれぞれ、「表現の活動」、「鑑賞の活動」、「表現したものを鑑賞する活動」とし、美術教育において偏りのないような構成にしました。研究主題や大会テーマでもある「波」や、集団の中で他者との調整を図りながら自分らしさを確立していく「社会性」を育むためにも必要な「対話」等をキーワードにして活動を行いました。

令和4年11月25日(金)大会当日は、天候にも恵まれ、県下各地から関係者も含め、120名を超える方々の参加をいただき、充実した研究発表大会を開催することができました。

一宮小学校では、1年生「スタンプ・スタンプ」、4年生「ゆめいろ らんぷ」、5年生「未来タウン 一宮」の

3学級展開を行いました。本校では、大会に向けて、合言葉のように繰り返し確認してきた言葉があります。それは、「一宮小学校ならではの」の追求です。地域の特色である美しい海や豊かな自然、校舎、敷地等の物的環境を生かした教材開発を進めたり、校舎内外の環境整備にも生かしたりしてきました。また、3年間、図画工作科に研究を絞り、指導法について研修を重ねてきました。昨年に続き本年度も、千葉県教育庁東上総教育事務所指導主事 大谷照久様を講師にお迎えし、2回のプレ授業から改善を繰り返し、大会での授業へと繋げていきました。

また、他学年や特別支援学級でも授業実践を重ね、一宮小学校全職員体制で、感性を高め合い、技能を向上させ、創造することの喜びを実感できような児童の育成を目指し、研究を進めることができました。

一気に普及が進んだネットワーク環境やICT機器のより一層の活用法にも、目を向けました。小学校、中学校の授業実践では共に、導入が目的とならないよう、図画工作科・美術科における、ICT機器の活用法についても、検討を重ね取り入れてきました。

本年度は新たに県造形教育部会のHPが開設され、HPを活用しながらの開催となりました。長生支会でも、オンラインを中心とした会議を重ね、大会準備を進めてきました。初めての活用により課題も残りましたが、Withコロナ時代において学校における新しい生活様式への転換と同様に、研究大会においても「ハイブリッドな大会」運営の一例となれば幸いです。

本大会は、コロナ前は行ってきた全体会や記念講演等を割愛し、スリム化を図った半日開催(午後)としましたが、2年ぶりの分科会も実施することができました。新たな部会テーマの基、研究局による練られた実践報告を受け、発表者のみならず、参加された皆様と討議し、また千葉大学の先生方、指導主事の先生方にご助言をいただき、造形教育について考えを深めることができました。

3 おわりに

長生大会の開催にあたりご指導賜りました皆様をはじめ、多くの関係者の皆様のご協力に心より感謝申し上げます。また、当日、ご参観いただいた多くの皆様、オンライン配信をご視聴いただいた皆様にも御礼申し上げます。皆様には、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。本大会の報告とさせていただきます。ありがとうございます。

一宮小学校のHPに大会当日の授業の様子、校内環境の画像も多数UPしています！現在、セキュリティの関係でスマホでは開けませんので、お手数ですがPCに直接、以下のURLを入力してトップページを開いていただき、行事写真のコーナーをご覧ください。

<http://ichinomiya-e.com/>



主体的・対話的に体育学習に取り組む児童の育成 —長南モデル「できる・わかる・かかわる」活動の実践を通して— 長南町立長南小学校

1 はじめに

本校は、令和2年度に千葉県教育委員会より学校体育の研究指定を受け、主体的・対話的に体育学習に取り組む児童の育成を研究主題とし、研究を行ってきた。今年度の11月には、3年間の研究成果を広く伝えるため、公開研究会を行った。

2 研究目標

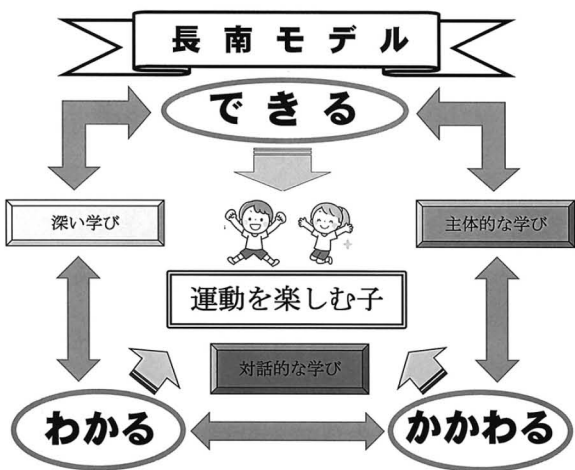
体育科学習において、長南モデルを活用し、主体的・対話的に取り組むことのできる児童を育成するための具体的な指導・支援の在り方を明らかにする。

3 研究仮説

児童の実態に適した課題を設定し、友達と関わり合いながら課題解決できるような学習を展開することで、運動を楽しむ児童を育成することができるだろう。

4 研究実践

(1) 長南モデルについて



「できる・わかる・かかわる」の3つが相互に関わり合う授業実践を通して、児童一人一人が運動する楽しさや喜びを味わい、運動に対する活動意欲や運動技能の向上につながる考えたモデルである。

(2) パフォーマンス課題について

パフォーマンス課題とは、様々な知識やスキルを総合して使いこなすことを求めるような複雑な課題を指す。

(3) ループリックについて

ループリックとは、成功の度合いを示す数レベル程度の尺度と、それぞれのレベルに対応するパフォーマンスの特徴を記した記述語から成る評価基準表である。

(4) 授業実践【公開研究会11月】

①低学年部会 表現リズム遊び 表現遊び

第2学年では、学習活動を3段階（ノリノリタイム・へんしんタイム・ストーリータイム）で構成した。また、題材のイメージや動きについて、オノマトペを使いながら掲示資料を作成した。さらに、学習形態を工夫して友達と動きを真似し合ったり、教え合ったりしながら伝え合う機会を多く設けた。そして、単元後には、表現遊びの楽しさを1年生に伝える活動を行った。



②中学年部会 ネット型ゲーム キャッチバレーボール

第4学年では、基本的なボール操作を身に付けさせるため、毎時間サーキット運動やタスクゲームを行った。また、全員が楽しくゲームに参加できるようにルールの工夫をしたり、簡単な作戦を選んだりしながら友達と関わり合いの場を設けた。そして、単元後には、身に付けたことを生かして、6年生との交流ゲームを行った。



③高学年部会 陸上運動 短距離走・リレー

第5学年では、単元を通して、サーキット運動や8秒間走を行い、走力の向上を図った。また、リレーの場を正方形型とし、走る距離の確保と、バトンの受渡をグループで見合える場とした。さらに、タブレット端末やポイントマップを活用しながら学習の習熟度を確認できるようにした。そして、単元後には、走りのポイントやバトンの受渡の仕方について、友達に紹介する活動を行った。



5 おわりに

これまでに、長南モデル「できる・わかる・かかわる」の授業実践と、児童の実態に適したパフォーマンス課題やループリックを用いた評価を活用しながら研究を進めてきた。

このような研究実践が運動を楽しむ児童の育成に寄与したと考えられる。また、パフォーマンス課題を設定したことで、その解決に向けて、友達と協働しながら最適解を探ることや、ループリックを用いた評価を行うことにより、学習の習熟度を確認しながら次への学びの意欲向上につなげられたと考えられる。

(文責 渡邊 純一)

令和4年度千葉県長期研修生 研究報告



〈国語科〉
茂原市立東郷小学校
教諭 太田和 絃子

地域単元を通して問題解決能力を育む書くことの学習
～企画書づくりにおける学習プロセスを踏まえた個別支援～

研究主題について

これからの社会を生き抜く児童たちにとって、問題解決能力を身に付けることが求められる。そこで、国語科における授業づくりの課題として、問題解決能力を磨き、書く力を高めることの指導が十分に意識されていないこと、個別最適のための学習の工夫や支援が必要とされていること、書くことを通して、地域の問題に深く関わろうとし、社会参画を意識した学びが求められていることの三点が挙げられる。

そこで、学習プロセスを踏まえた企画書づくりを通して、地域の理解を深めることや、問題解決能力を身に付け、児童一人一人に即した指導・支援をすることで、書く力の育成につながると考え、本主題を設定した。

研究目標

茂原七夕まつりの企画書づくりを通して、問題解決能力を身に付け、地域の問題に深く関わり、学習プロセスに即して児童一人一人に寄り添うことは、書く力の育成に有効であることを明らかにする。

研究の概要

- 1 問題解決の学習プロセスに即した書く力を育成する
問題を見つけ、原因を分析することで、どのような手立てが問題の解決につながるかという、問題解決学習の一連の思考の流れを、本単元を通して得ることができた。記述では、タブレットを用いたことも普通の作文の授業と違い、良さを多くの児童が実感できた。
- 2 学習プロセスに即した支援による、個別最適な学びを充実させる
記述が苦手な児童が最後まで粘り強く書けたり、得意な児童が自分のペースで取り組めたりと、それぞれの児童が学習時間に自分のできることを十分に発揮できるような環境を意図的につくるのが効果的であった。
- 3 地域教材を扱うことで、地域への愛着や誇りを再認識し、社会参画の意識をもたせる
茂原七夕まつりの「企画書」を教材とすることで、児童にとって地域の実態を捉える一手となり、新たな担い手としての意識をもつことができた。

研究のまとめ

問題解決のための視点を持ち、現状の把握、原因の分析、改善案を明確にすることで、企画に具体性をもたせ、自身の考えを書くことができた。また、個別の支援を学習プロセスに応じながら行うことで、記述が苦手な児童も最後まで粘り強く書くことができ、様々な児童に効果的であった。さらに、地域教材を扱うことは、地域の問題に関わろうとし、地域をよりよくしたいと思える児童の育成につながった。



〈算数科〉
白子町立関小学校
教諭 吉原 慎司

統計グラフを読み取る力を育成するための指導の在り方
～グラフのかきかえ、問題作成、問題解決の学習活動を通して～

研究主題について

日常生活の中では、誤解が生じやすいグラフが用いられている場合があり、グラフを一面的にしか捉えていないために、情報を正しく理解できなくなってしまうことがある。そこで本研究では、「データの活用」領域において、誤認しやすいグラフを題材として用いる学習活動を実施し、グラフを正しく読み取る力を育成したいと考え、本主題を設定した。

研究目標

小学校算数科「データの活用」領域において、第5学年、第6学年で単元を新設し、グラフのかきかえ、問題作成、問題解決という一連の活動を行うことで、グラフを正しく読みとる力が育成できることを明らかにする。

授業の概要

(1) 単元の新設

グラフを読み取る力を育成するために、教科書では示されていない授業を新たに計画し、第5学年、第6学年の単元として新設した。

右の表は第5学年の概要である。

新設単元の概要 (第5学年)

時間	学習内容
第1時	棒グラフをかきかえ、情報を読み取る。
第2時	折れ線グラフをかきかえ、情報を読み取る。
第3時	誤認しやすいグラフを作成する。
第4時	他者が作成したグラフを読み取り、解決する。

(2) グラフのかきかえ

グラフのかきかえの活動では、省略を表す波線が使われることにより、1目盛りの大きさが定まらず、誤認が生じやすいグラフを題材として扱った。このようなグラフを基に、省略を表す波線を使わずに1目盛りの大きさをそろえ、新たな棒グラフや折れ線グラフにかきかえる活動を行った。

(3) 問題作成

問題作成の活動では、波線が使われていないグラフを児童に提示し、波線を使うグラフにかきかえさせた。さらに、かきかえたグラフを用いて誤認しやすい問題文を書くように指示をした。

(4) 問題解決

問題解決の学習では、作成した問題を他者に出題したり、他者が作成した問題を解いたりする活動を行った。さらに、授業者が作成した波線を使っても、1目盛りの大きさの数値は変わっていないグラフを用いている問題も同時に提示し、正しく読み取る力が育成されたかを検証できるようにした。

研究のまとめ

小学校算数科「データの活用」領域において、「グラフのかきかえ」「問題作成」「問題解決」という一連の活動を設定することによって、多くの児童がグラフを正しく読み取ることができるようになり、学習活動の有効性を示すことができた。

令和4年度千葉県長期研修生 研究報告



〈理科〉
茂原市立中の島小学校
教諭 渡邊 耕一

小学校4年「すがたを変える水」の「結露」について学びを深め日常生活につなげる理科指導

研究主題について

児童にとって水蒸気という見えないものが存在すること理解することの難しさが指摘されている。学習指導要領で求められている主体的・対話的で深い学びの実現に向けて理科の学習では、児童の興味関心を高める授業を行い、疑問を解決し、日常の自然現象と学びをつなげていくことが、深い学びにつながると考えた。そこで、「すがたを変える水」において、水の温度変化と様子について追究していく授業づくりをすることで深い学びにつながると考え、本主題を設定した。

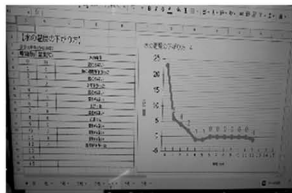
研究目標

「すがたを変える水」の学習において、水の性質や結露について説明するための授業づくりを行い、その授業が深い学びに効果があるかを検証する。

研究の概要（第4学年）

1 導入の工夫とICT機器活用（タブレットと紙の併用）

導入に問題を見だしやすい教具と、水の沸騰や氷になるまでの温度変化を視覚的に捉えやすくしたグラフの作成を、タブレットと紙を併用して用いることで、話し合いの焦点化がしやすくなり、グラフの作成もスムーズに行うことができた。



2 実験方法を児童自ら考える

どの実験も教師の手立てのもと、児童自身が考えて実験することで、主体的な問題解決につながることができた。

3 日常の現象と理科の学びを関連付ける

授業で児童が発見した知識を活かして日常の自然現象の解明と課題の解決方法を考えさせた。一人では解決できないことも他者と協働して考えることで課題を解決し、普段の生活に理科の学びが活かしているか考える児童が増えた。

4 単元構成の工夫

水蒸気の学習について、教科書会社を分析して、水蒸気について理解を図る指導計画を立てた。

研究のまとめ

授業の導入に疑問を抱くような教具を用いることで児童が問題を見出すことができ、追究活動につながることができた。また、ICT機器を効果的に活用し、日常生活と授業で扱う事象とを関連させ、実験計画を児童自身が考えることで、学びを深めるとともに、理科の学習が普段の生活に活かしているか考える児童が増えた。さらに、意図的に授業の中に説明し合う活動を組み込むことで、根拠をもって説明することに自信を持つ児童の育成ができた。



〈総合的な学習の時間〉
一宮町立一宮小学校
教諭 樋口 陽樹

活力と魅力ある一宮町の創り手の育成
～ESDの視点に立ったプロジェクト型学習を通して～

研究主題について

持続可能な社会の創り手の育成のために、ESDがその一つの手立てとして欠かせない。一方で、地球規模の課題を自分事として捉えさせることの難しさや、心がけ型の取組で完結してしまうという課題がある。そこで、ESDの視点に立ったプロジェクト型学習に取り組み、実践活動や自治体への提言など、課題解決のための具体的な行動に繋げることで、活力と魅力ある一宮町の創り手を育成できると考え、本主題を設定した。

研究目標

ESDの視点に立った一宮町を素材としたプロジェクト型学習の実践を通して、「地域や社会に働きかけ、協力して活動する力」を育てるとともに、ESDで重視する「進んで参加する態度」等を身に付けさせる。

授業の概要（第6学年）

プロジェクト型学習（PBL:Project -Based Learning）「まちづくりプロジェクト2022」の実践（30時間）

（1）評価規準の設定

学習者中心の学びにするために、児童と共に評価規準表を作成した。

（2）プロジェクト毎に探究活動

児童自身の「解決したい」「取り組みたい」という気持ちを重視したことで、商店街活性化、海ゴミ再利用アート等、全19のプロジェクトが立ち上がった。筆者が児童と地域人材を繋ぎ、約20人の地域人材と関わりながらプロジェクトを進めた。各々が作成した企画書をもとに、実践活動や自治体への提言など、課題解決のための具体的な行動に繋がった。

（3）学習履歴図による振り返り

内省的思考力を高めるために学習履歴図（Google Classroom上で提出・返却）を活用して自己評価を長期間継続した。これは児童と筆者の対話を可能にし、学習の深化を図ることができ、その有効性が分かった。記述内容を11の視点ごとに分類した結果、特に「進んで参加する態度」に関するものが多く、学習者中心の学びになっていたと評価する。

研究のまとめ

本実践が、活力と魅力ある一宮町の創り手に必要な「地域や社会に働きかけ、協力して活動する力」を育て、「進んで参加する態度」「コミュニケーションを行う力」「他者と協力する態度」等、ESDで重視する能力・態度の素地を身に付けることに有効であることが分かった。各プロジェクトが具体的な行動に繋がった。最後に他者評価を受けたことで、「地域社会をよりよくすることができる」と考える児童が増え、シビックプライド尺度における社会参画の意識を高めることができた。今後は、町を挙げたプロジェクトを継続するために、指導者や児童の実態に合わせたカリキュラムを再構築していく。そして、町内の小中高・特別支援学校で目的を共有すると共に、連携しながら、町全体で創り手を育てていきたい。

研修を終えて



初任者研修を終えて

白子町立南白亀小学校
教諭 狩野 美鈴

初任者研修を通じてたくさんのご指導を受け、教員として「必要な資質・能力」を学び、2年目のスタートラインに立とうとしています。

校内研修では、初任者指導教員の先生から、児童の実態に応じた授業づくりや学級経営、発問の仕方など、多くのご指導を得ました。特に、道徳の学習では、児童が自らの学校生活を振り返ることができるような授業づくりや発問をすることで、児童自身が自らの課題を見いだすことができると学びました。これからも児童の実態に応じた声掛けや指導に取り組み、児童に寄り添った授業づくりや学級経営をしていきたいと思ひます。

異校種交流協議では、「目指す教師像、そして明日からできること」というテーマをもとに、協議を行いました。校種によって目指す教師像がそれぞれでも、どの先生方も幼児・児童・生徒を第一に考え、一人一人に寄り添っていききたいという想いは同じでした。コロナ禍での交流研修は初任者同士の悩みも聞くことができ、励みとなりました。

校外研修では、講師の先生方の実践に基づいた教科指導や生徒指導、そして現代の教育課題に至るまで、たくさんのご指導をいただきました。特に、目の前の子どもにどう対応したらよいか悩んでいる私にとって、子どもたちとのかかわり方のポイントを学んだことはとても参考になりました。また、初任者の先生方と自身の教育実践についての協議も行いました。授業づくりや学級経営において、悩んでいるのは私だけではないと感じることができました。今後も子どもたちのために互いに支え合い、励まし合いながら成長していきたいです。

他校研修では、児童の発達段階に応じた授業づくりや学級づくり、発問の仕方、接し方などを学ぶことができました。特に、ある先生の「子どもたちに授業開始時間を守ってもらうからには、教師も授業終了時間は守らないといけない」という言葉を聞き、私も児童に指導するだけでなく、自分自身の発言と行動が伴う教師を目指していきたいと思ひました。

そして、自校の先生方が温かい目でご指導くださったことが何よりの研修です。目の前の子どもたちへの指導や対応に悩んでいた時に、自分の時間を割いて丁寧に「こういう方法もあるんじゃない」とアドバイスをしてくださり、ひとつひとつ解決していくことができました。まだまだ「一人前の教師」になるには先が長いですが、「諸先生方に負けないように頑張らねば」と高い志と責任感を感じています。

この一年間、様々なことを経験し、学ぶことができました。コロナ禍にもかかわらず、研修する機会を与えていただいたこと、多くの先生方から教えていただいたことに感謝し、これからの教員生活に活かしていきます。常に学び続ける姿勢を忘れず、「すべては子どもたちのために」日々成長し続けることのできる教員でありたいです。

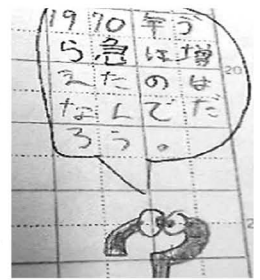


3年目研修を終えて

茂原市立萩原小学校
教諭 小林 廉

3年目研修の課題研究研修では、「なぜ、どうして」を大切に、広げ深める「社会科」をテーマとして授業改善に取り組みました。年度始めに、担任をする学級の児童に行った社会科に関するアンケートの結果、約半数の児童が、社会科に対して興味関心があまりないことが分かりました。社会科の授業改善が、児童の意識を変えるためには必要なことだと考え、他の先生方の授業ノートを見させていただいたり、授業に関するアドバイスを積極的に求めたりしました。また、児童にも「どんな学習活動がしたいか」を尋ね、児童の要望を取り入れながら授業改善をしていきました。

様々な手立てを講じた中で、特に効果的だったことが2つありました。1つ目に、調べ学習の際には「なぜこうなのか」「どうしてそうなのか」という疑問をもつよう、意識させたことです。これにより、その後のグループ活動では、調べたことを共有するだけでなく、自分の中で生まれた疑問についてグループで討論し、答えを予想する様子が多くみられ、学習の深まりが感じられました。2つ目に、毎単元の終わりに、学習したことをタブレット上でまとめ、発表を行ったことです。これにより、大事な部分はどこかを考え、抜き出す力が身に付きました。冬休み前に実施したアンケートから、社会科に対して興味関心をもつ児童が約9割まで増えたことが分かりました。また、グループ活動や発表が楽しいと回答する児童も多くなりました。3年目研修が、教師自身の課題意識をもって授業改善を行うよいきっかけとなりました。



異校種研修では、千葉県立長生高等学校に行かせていただきました。高校での授業の様子を見る機会は非常に貴重で、たくさんのご指導がありました。中でも、朝の会で、連絡事項が個人のタブレットに配信されていたり、ほとんどの授業で紙のノートが使われておらず、記録がタブレット上に行われていたり、ICT機器の活用が非常に進んでいることに驚きました。小学校の学習でも活用できそうな支援ツールもあったので、これからの指導に生かしていきたいと考えています。また、グループ活動の際に「話の聴き方」について、指導があったり、国語科で段落の要旨をまとめる活動があったりと、小学校で指導していることと高校で学ぶことが深く繋がっていると実感しました。改めて、そういった基礎基本となる指導を丁寧にしていきたいと思ひました。

3年間、様々な研修を経験する中で、たくさんのご指導を感じたり、学んだりすることができました。研修での経験と、学校で多くの先生方から教えていただいたことは私の宝物です。これからも、宝物と言えるような知識や技術を更に増やせるように、自己研鑽をしていこうと思ひます。

研修を終えて



中堅教諭等資質向上研修を終えて

一宮町立一宮中学校
教諭 佐倉 祐一

今年度、中堅教諭等資質向上研修に参加させていただき、改めて研修を含めた自己研鑽の重要性について感じる事ができました。特に、昨今のコロナ禍において、学校行事の精選をはじめとした教育活動の見直しが求められる中で、これから教員として必要な資質や能力について学ぶ貴重な機会となりました。

千葉県総合教育センターでの研修では、「授業におけるICT活用」に関する具体的な活用例と併せて、県内の異校種における活用状況や各地域の取り組みなどについて学ぶことができました。それらを踏まえ、一人一台端末（タブレット）を活用した授業実践とICT機器（電子黒板）を活用した授業実践を行い、それぞれ指導主事をはじめ多くの先生方からご指導いただきました。二回の研究授業をとおして、これまでの指導を振り返るとともに、新たな視点や見方に気づくことができました。

また、共通研修において、「千葉県・千葉市教員等育成指標」の4つの柱について班別協議をする中で、中堅教諭である私たちが、本音で語ることでできる職場の雰囲気をつくり、ベテランと若手をつなぐ役割を担っていることを認識することができました。特に、感染症の影響で制限や見直しが図られる中で、本質として変わらないもの、その必要性を再確認できたものなど、これからの学校を運営していくために大切な要素を考えることができました。そして、地域や立場の異なる先生方が、自分と同じように悩みを抱え、試行錯誤しているということ共有することができ、大変ありがたく思うとともに心強く感じました。

さらに、育成指標をもとに進路指導・キャリア教育を自己の課題として設定し、その課題を解決するために、以下の3つを重視しました。

- (1) 教務主任の先生や各学年主任の先生方と連携を図ること。
- (2) 発達段階に応じた必要な指導を考えること。
- (3) 学年・学校という単位で組織を動かしていくこと。

これらについて、適宜、管理職からご指導をいただきながらではありましたが、主任会等も活用しながら業務に取り組みました。その結果、中堅教諭として横や縦の連携がとれ、チームとして温度差なく指導にあたることができたと感じています。

最後に、今回の研修で改めて自身の在り方を振り返るとともに、様々な面から学びを得ることができました。今後は、経験の浅かった私に先輩方がそうしてくださったように、私が若い先生方に行動や言葉かけで手本を示すことができるように、これからも積極的に研修に参加し、校内においても研修の企画や運営に携わるなど、常に向上心をもって学び続けていきたいと思っております。

教育功勞表彰

本年度の教育功勞等の表彰において、次の先生や団体が、日頃の教育活動のご功績を認められ表彰されました。心よりお祝い申し上げます。なお、掲載順につきましては、表彰の名簿順とさせていただきます。

(敬称略)

○優れた「早寝早起き朝ごはん」運動の推進にかかる

文部科学大臣表彰

茂原市立五郷小学校

○文部科学大臣優秀教職員表彰

睦沢町立睦沢小学校 教諭 常世田 伸吾

茂原市立本納小学校 教諭 佐藤 範子

○千葉県学校体育功勞者表彰

一宮町立一宮中学校 校長 豊田 武文

○千葉県学校健康教育功勞者表彰

白子町立白瀧小学校 栄養教諭 今井 友子

○長生地区市町村教育委員会連絡協議会表彰

茂原市立鶴枝小学校 校長 白井 喜久夫

茂原市立東中学校 校長 田中 弘樹

茂原市立富士見中学校 校長 細田 稔

睦沢町立睦沢小学校 校長 久我 英治

長生村立一松小学校 校長 矢部 孝之

長生村立長生中学校 校長 佐藤 洋光

○睦沢町教育委員会教育功勞者表彰

睦沢町立睦沢小学校 校長 久我 英治

睦沢町立睦沢小学校 教諭 宮本 和美

睦沢町立睦沢小学校 教諭 渡邊 京子

睦沢町立睦沢小学校 教諭 今井 由記子

○白子町教育委員会教育功勞者表彰

白子町立白瀧小学校 事務長 大岩 正江

○長柄町教育委員会教育功勞者表彰

長柄町立長柄中学校 教頭 佐久間 康幸

長柄町立長柄中学校 養護教諭 灰野 都

○長南町教育委員会教育功勞者表彰

長南町立長南中学校 養護教諭 常澄 裕美